



## 令和3年度 学校関係者評価の結果のお知らせ

日頃より谷原小学校の教育活動にご理解、ご協力くださりありがとうございます。谷原小学校では、保護者、地域、学校関係者の皆様の信頼に応えるべく、よりよい教育活動を目指して毎年、教育課程等の改善、充実を図り、実施をしています。今年度の教育活動も、学校の教職員の自己評価、保護者アンケート、児童アンケート、学校関係者評価委員の皆様のご意見をもとに、学校評価として取りまとめ、次年度の教育課程改善に向けた指針としています。保護者の皆様には、アンケートにご協力いただいたことに感謝いたします。

以下に、学校評価の結果をお知らせするとともに、来年度に向けた改善の方向性等を示します。今後とも、谷原小学校の教育活動へのご理解とご協力をお願いします。

### 1 自己評価結果の概要

#### ○ 学力の定着と向上について

児童・保護者によるアンケート結果では、児童の91%、保護者の76%が「授業が分かりやすい」と、肯定的な回答でした。また、「少人数算数の授業が分かりやすい」という児童の回答も87%となりました。少人数算数においては、今年度は蔓延防止に対する本校の措置として、なかなか計画通りに少人数指導を実施できないこともあり、昨年度比－5ポイントとなりました。一方、依然として習熟度別指導の必要性を児童が感じていることから、来年度は昨年度の結果以上となるよう少人数指導の指導計画を見直してまいります。また、次年度も引き続き、どの教科・領域でも児童が主体的、対話的で深い学びができるような授業改善とICT機器活用等による可視化を通した分かりやすい授業を通して、学習への興味・関心を高め、学力の定着と向上を図ります。

#### ○ 豊かな心の育成について

いじめ等の早期発見に係るアンケート、5年生児童のスクールカウンセラー全員面談等を計画的に実施し、課題の防止に努めてきました。「学校が楽しい」と回答した児童88%、保護者87%、「思いやりの気持ちをもって、他の人に優しくしている」と回答した児童84%、保護者86%となり、児童・保護者とも90%を割っていません。アンケート、個別聞き取り、情報共有を継続し、優しさや思いやり等の心情を高める道徳教育、いじめ防止、規範意識を高める授業等、課題を予防、防止する教育の充実を図ります。

「自分のしていることは、人の役に立っている」と回答した児童74%、「自分にはよいところがある」と回答している児童73%と昨年度よりもやや上昇傾向にあります。社会情勢を鑑みながら学級・学年等の集団の中での役割を自覚させ、異学年や異年齢の人々との適宜交流活動を実施し、今後も児童の頑張りや活動の取り組み方などに対して教師が適切に価値付ける等、自尊感情、自己肯定感・自己有用感を高めることに力を入れてまいります。

#### ○ 健やかな体の育成について

児童アンケートにおいては「運動が好き87%」、「運動を続けたい87%」、「めあてをもち学習した87%」と引き続き運動への高い意識が見られています。運動習慣状況調査における「運動が好きである」という児童の回答も90%を超えています。来年度も校内研究の教科を体育科とし、児童の願いに応じられるよう授業改善を推進し、体力向上への取組をより一層充実させてまいります。

危険なことから身を守る力の育成においては、セーフティ教室等の行事、安全点検、SNS ルールの指導等を計画的に実施しました。日常的な安全指導においても「計画的に実施した」と回答した教員は97%に達しました。しかし、「危険なことから身を守る力が付いた」と回答した児童は85%、保護者83%と教職員間との差が見られます。変化の激しい現代にあつて、児童や保護者が感じる身の回りの危険も年々変化してきています。指導計画等を常に更新することで、今後も、身近に潜む危険予測・防止だけでなく、様々な不測の事態における児童の安全確保とともに危険を回避する行動がとれるように指導と管理体制を充実させてまいります。

#### ○ 社会の発展に貢献しようとする心の育成について

コロナ禍以前は、地域連携事業において、外部人材等を計画的に活用して、町探検、地域の農業の学習、農園活動等の体験的な学習を進めてきたところでありました。しかし、今年度も外部人材等と連携して教育活動を進めることが非常に困難でした。「学ぶ機会が十分に設けられた」と回答した教員も低い結果となりました。このような状況にあつても、「地域が好き、役に立ちたい」と感じている児童は87%と昨年度とほぼ同様の結果となりました。感染症防止対策と並行して地域連携事業を有効活用し、地域の学びを充実できるよう指導計画を講じます。また、愛校心、郷土愛を「特別な教科 道徳」の重点とし、複数回の授業の機会を設ける予定を立てています。

(裏面に各項目の自己評価、学校関係者評価の詳細を掲載しております。)

## 2 学校関係者評価結果について

### (1) 概要

#### <成果>

具体的方策に対して努力指標や成果指標を設定し、評価を実施することで評価の信頼性が増し、適正な評価ができているという評価を得ました。また、次年度の具体的方策に基づいた改善策についても、方向性は適切であるという肯定的な評価を得ることができました。

「学力の定着と向上」においては、谷原小スタンダードとして学習規律等が徹底されていくことは望ましいことであり、新型コロナウイルス感染症防止策を見据えた、より現実的なスタンダードを活用し、学校での学習活動が充実し、学力の定着や向上のために有意義な取組を継続する方向性に評価を得ました。

「豊かな心の育成」においては、児童数が多い中、いじめアンケート調査や情報交換等により、いじめ防止に取り組んでいることが、いじめの早期発見・解決をめざす取組につながっていると評価を得ました。

「健やかな体の育成」においては、教師が自信をもって体力の向上や健康教育・安全教育に取り組んでいることで児童も体育科をはじめとする運動に意欲をもつことができているという評価を得ました。

「社会の発展に貢献しようとする心の育成」においては、新型コロナ禍で限られた中ではあったが、学校農園での栽培活動を実施していることに対し、児童に自然体験や地域の特色等を体験させることに効果があると評価を得ました。

#### <課題>

「学力の定着と向上」

- ・タブレット型パソコン等の ICT 機器をさらに有効活用し、ユニバーサルデザイン化を図り、指導のより一層の充実を求める意見がありました。

「豊かな心の育成」

- ・「学校が楽しい」と回答しなかった児童への対応を進め、「学校が楽しい」と感じられるよう、挨拶や言葉遣い等の言語環境整備と挨拶運動等の取組を推進するとともに、いじめや不登校防止の取組を継続して行っていくことが必要であるという意見が出されました。
- ・いじめがない学校となり、命を大切にす指導をより重点化する必要があるとの意見もありました。
- ・各家庭の事情を考慮しながらも、家庭で躰けるべきと散見されることも見られるので、適切な親子関係の在り方等を啓発していく必要があるとの意見が出されました。

「健やかな体の育成」

- ・現在、学校が取り組んでいることを継続・充実させて、より児童の体力向上のために指導してほしいという意見がありました。

「社会の発展に貢献しようとする心の育成」

- ・これまで行ってきた地域行事の在り方や実施方法など新たな開催方法を考慮しているとのこと。それぞれの行事が開催された際には、多くの保護者の方にも参加してほしいとの意見が出されました。
- ・今後も学校や地域の歴史やよさを学ぶ機会を継続して指導してほしいとの要望がありました。

### (2) 学校関係者評価を踏まえた次年度の方策の概要

「学力の定着と向上」

- ・分かりやすい授業をするため、授業のユニバーサルデザイン化（学習のめあてと流れの明確な提示、ICT 機器活用等による見える化等）を学習スタンダードとして位置付け、実践化を図ります。
- ・考える場の設定や考えを可視化することで、主体的で対話的な学びを推進します。
- ・今後も朝読書、親子読書、読書週間等の機会を設け、読書への意欲を喚起していくとともに大人も読書にかかわれるよう啓発や取組の工夫を図ります。
- ・谷原未来塾が学習の基礎基本の定着のためであるという目的やその運営方法についての周知徹底を図ります。

「豊かな心の育成」

- ・いじめ防止に関する授業、「特別の教科道徳」の他者との関わりの授業、人権課題「子ども」に関する授業、SOS の出し方教育等、いじめ防止や命を大切にす自殺防止に向けた授業を実施します。
- ・特別支援教育の視点からの支援とルールやモラル等の規範意識を高めることの両面から、谷原小スタンダード に基付いた指導、児童を中心としたあいさつ運動の推進、言語環境の整備を推進します。
- ・きょうだい学年、幼保小中等の様々な交流活動を教科・領域の中へも取り入れ、活動についての振り返りと共有を行うことで、自分が学校の役に立っていることを自覚させて自己肯定感と自己有用感を高めてまいります。

「健やかな体の育成」

- ・健康教育（運動・栄養・休養・がん教育・性教育を含む）の推進や充実を図り、児童が正しい知識を身に付け、適切な意思決定や行動ができるようにします。
- ・様々な運動への関心を高め、体験することを通じて相手を思いやる心を育むとともに、体力の向上や健康づくりに意欲的に取り組む態度を育みます。
- ・日常生活に潜む様々な危険を予測し、自他の安全に配慮した行動をとるとともに、進んで安全で安心な社会づくりに貢献しようとする態度を育みます。

「社会の発展に貢献しようとする心の育成」

- ・感染症対策を講じながらもできるだけ学校農園活動や地域の方々との交流の機会を通して、学校や地域への思いを聞く機会を設けることに努めてまいります。
- ・学校ホームページや Google classroom などを活用して学校情報の発信を推進するとともに継続して学校行事や地域行事への参加を呼びかけてまいります。

